様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０５６８９

研究課題名（和文）eラーニングを用いたジェネラリストの家族看護力向上プログラムの開発と実証研究

研究課題名（英文）Developing family nursing competency improvement program for generalist nurses using e-learning and its empirical research

研究代表者
本田　順子（HONDA, JUNKO）

神戸大学・保健学研究科・講師

研究者番号：５０５８５０５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,920,000円

研究成果の概要（和文）：現在、少子高齢化や医療の在宅化が進む中、看護師全体の家族看護力の向上がわが国の急務である。そこで、本研究では、ジェネラリストの家族看護力を向上させるeラーニング教育プログラムを開発・実証することを目的とし以下の研究を実施した。①家族看護力の構成概念を明らかにした。②ジェネラリストの家族看護力をアセスメントする尺度を開発した。③eラーニングツールとしてのジェネラリストの家族看護力を向上する教育プログラムを開発した。②で開発した尺度を用いて、③開発したジェネラリストの家族看護力向上プログラムの有効性を検討した

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、まず家族看護の実践能力とは何かを学術的に明らかにし、その中でもジェネラリストがもつべき家族看護の実践能力について検討し、その能力を養うためのeラーニングツールを開発した。ジェネラリストがもつべき家族看護の実践能力が明らかになることで、基礎教育で教授するべき範囲が明確になったことは学術的意義があると考える．また、その能力を現認教育でも使用できるツールとしてeラーニングを用いた教育プログラムを開発した。この教育プログラムを活用することで、どこからでも誰でも学習できる環境が提供されることは看護師の家族看護実践能力のボトムアップに貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：Improvement of the family nursing competency of nurses is an urgent task in Japan with the declining birthrate, the aging of the population, and the advancement of home medical care.
We conducted the following study with the purpose of developing and demonstrating an e-learning education program that improves the family nursing competency of generalist nurses.
1) We clarified the composition concept of family nursing competency. 2) A scale was developed to assess the family nursing competency of generalists. 3) E-learning education program was developed to improve family nursing competency of generalist nurses. Using the scale developed in 2), we examined the effectiveness of the family nursing competency improvement program developed by the 3).

研究分野：家族看護学

キーワード：家族看護　看護教育　eラーニング　看護実践能力

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

患者個人だけでなく、患者を含む家族を１つのシステムユニットとしてとらえ、家族全体を対象とした看護ケアを提供することが世界的なスタンダードとなっている(Hinds ほか、Cancer Nurs.、 2012)。すなわち、看護師は患者個人を看護するための知識やスキルだけでなく、家族システムユニットを統合的にアセスメントし、家族全体を看護するための知識やスキルを常備することが求められる。特に近年では、病院から在宅へと医療は大きくパラダイム・シフトを迫られており、在宅での治療の継続や療養には「家族」の存在は欠かせない。“介護うつ”、“共倒れ”などの用語が新聞などで散見される超高齢社会において、家族に対して取り組むべき課題は多く、看護師のもつ家族看護力のニーズは高まっている。

1990 年代後半から看護系大学が増加し、2014 年には 234 校となった。看護学教育の学部教育化が浸透してきており、エビデンスにもとづいた看護師の看護能力の向上が求められている。しかし、4 年間の学部教育では、家族看護学の知識に少し触れることはできても、実践能力を身につけるまでに至らない。大学によっては、独立した「家族看護学」の科目がない場合もある。また、わが国では学部教育を受けていない看護師も多く存在するため、卒後教育として、家族看護力を身につける手段が必須となる。そこで、本研究では、家族看護学の卒後教育の 1 つとして e ラーニングを用いた教育ツールを開発することにした。e ラーニングを用いれば、教育の地域格差を是正できる。また、勤務している多忙な看護師が決められた日時の研修に参加するのは難しい場合もあるが、e ラーニングであれば、自分の好きな時間に勉強ができるという点で大変優れている。この教育ツールによって、ジェネラリストの看護師が日々の実践に使用することが可能となる。

家族看護を専門とする家族支援専門看護師教育は大学院において開始されており、現在国内には 27 名の家族支援専門看護師が存在する（2014 年現在）。スペシャリストはジェネラリストの家族看護力を育成する役割も担っているが、まだ少数であり、彼らの勤務地も偏っているため、看護師全体の能力の底上げには至らない。また、家族支援専門看護師の多くは規模の大きい病院で勤務しているが、活躍の場は幅広く、病棟の１スタッフとして働いている者から、どこの病棟にも属さず独立して活躍している場合もあり、家族支援専門看護師の専門的能力は未だ研究で明らかになっていないのが現状である。すなわち、家族看護の専門家教育が開始されたものの、専門家の家族看護力、ジェネラリストの家族看護力は明確になっていない。そこで、本研究では、家族看護学を専門とする大学教員、家族支援専門看護師らの協力を得て、スペシャリストの家族看護力とはなにか、ジェネラリストが具備すべき家族看護力はなにかをまずは明らかにし、家族支援専門看護師と共にジェネラリストの家族看護力を向上する教育プログラムを開発することを目的としている。同時に、家族支援専門看護師の専門能力とはなにかを明らかにすることができ、今後の大学院教育への示唆を得ることができる。

２．研究の目的

本研究では、ジェネラリストの家族看護力を向上させる e ラーニング教育プログラムを開発・実証することを目的とする。具体的な目標としては、①家族看護力の構成概念を明らかにする　②ジェネラリストの家族看護力をアセスメントする尺度を開発する　③e ラーニングツールとしてのジェネラリストの家族看護力を向上する教育プログラムを開発する　④②で開発した尺度を用いて③で開発したジェネラリストの家族看護力向上プログラムの有効性を検討する。

３．研究の方法

研究１　家族看護力の構成概念の明確化

ジェネラリストのもつべき家族看護能力を抽出するために、国内外で一般的に使用されている書籍の内容を抽出することとした。CiNii Books、Webcat Plus、NDL-OPAC を用い、「家族看護」のキーワードで検索した結果、41 件が抽出された。海外の書籍については「family nursing」に関連する書籍をハンドサーチし、6 件を分析対象に加えた。すべての書籍と資料を精読し、家族看護過程別（家族情報収集、家族アセスメント、家族支援計画、家族支援実践、家族支援評価）に内容分析を実施した。分析は 4 名の家族支援実践者と家族看護学研究者で行い、リガーを高めた。

研究２　ジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度の開発

研究１で明らかとなった家族看護力の構成要素を家族看護実践能力尺度の項目案（85 項目）とし、尺度案を作成した。次に、それらがジェネラリストの看護師がもつ能力として適切な項目がどうかを明らかにするために、全国の家族看護学を専門とする教育者・研究者(大学教員)、実践者(家族支援専門看護師)を対象とした 3 段階デルファイ法による質問紙調査を実施した。大学教員は、家族看護学を専門とし、家族支援専門看護師を養成している大学院教員を対象とした。対象者は、依頼文を読み、本研究への参加に同意した場合にのみ、指定されたサイトにアクセスし、質問に回答した。インターネット調査は Survey Monkey を用いた。その結果、尺度の項目は, 61 項目となった。次に、国内の家族看護を専門とする研究者とジェネラリスト看護師を対象としたインタビュー調査を実施し、項目の表面妥当性を検討した。尺度の信頼性と妥当性を検討するために、A 大学医学部附属病院、B 市民病院の看護師を対象とした質問紙調査を実施した。併存妥当性を検定する尺度として、既存の「The Holistic Nursing Competence Scale」を用いた。

研究３　家族看護力向上のための教育プログラム、e ラーニングツールの作成

看護教育におけるｅラーニングについての国内文献検討を行い、現状と課題を明らかにした。それを踏まえて、研究代表者と家族支援専門看護師３名で、ジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度の項目が学べるようなｅラーニングツールの原案を作成した。次に、日本家族看護学会学術集会にて、家族看護の現任教育におけるｅラーニングについての交流集会を行い、参加者からの意見を集約した。それをもとに、ｅラーニングツールをブラッシュアップした。

研究４　家族看護力向上プログラムの妥当性の検討

ｅ ラーニングプログラムを用いた介入研究のパイロットスタディを実施した。対象者は、A大学医学部附属病院, C市にある訪問看護ステーション16施設からリクルートした。対象者は、研究依頼文を読み、本研究への参加に同意した場合にのみ研究者へメールで連絡をし、ｅ ラーニングプログラムに参加した。対象者は、ｅ ラーニングプログラムの前にジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度に回答し、約１ヶ月のｅラーニングプログラムを受講後、再度ジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度と、ｅ ラーニングプログラムについての事後アンケートについて回答した。質問紙はすべてインターネット調査とし、Survey Monkey を用いた。本ｅラーニングプログラムの効果は、ジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度の変化とｅラーニングプログラムについての事後アンケートから評価した。

４．研究成果

研究１　家族看護力の構成概念の明確化

国内外の文献から家族看護過程別に分析した結果、家族情報収集では、「家族アセスメント指標を用いて系統的に情報を収集する」「家族員間の相互作用を観察する」など、家族アセスメントでは、「家族のもつ多様な側面をとらえると同時に相互の関係を分析する」など、家族支援計画では「家族看護問題の明確化と優先順位の設定をする」「家族のセルフケアを推進する計画を立案する」など、家族支援実践では「家族とのパートナーシップの形成する」「家族員、家族システムユニット、家族外部環境システムに働きかける」など、家族支援評価では「家族と共に評価を行う」「家族機能レベルを経時的に評価する」などが家族看護の能力として抽出された。看護過程の展開は，個人看護も同様のプロセスではあるが、家族という複雑な集団をとらえるにあたっては、既存の理論やモデルをベースとした情報収集とアセスメントのプロセスが重要である。本研究では各書籍に書かれている家族看護過程の段階別に内容を分類したが、書籍によっては同じ内容のものが異なる段階に分類されており、統合するのに困難があった。ジェネラリストの家族看護能力向上を目指すためには、どのような時にどのような能力を発揮する必要があるのかを系統立てて明確にする必要があることが示唆された。

研究２　ジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度の開発

研究１で明らかとなった家族看護力の構成要素を家族看護実践能力尺度の項目案とし、家族看護過程別に（家族の情報収集、家族アセスメント、家族支援計画、家族支援、家族支援の評価）合計85項目とした。3段階デルファイ法による質問紙調査については、家族支援専門看護師を要請している大学の教員と家族支援専門看護師15名から協力を得た。3段階デルファイ法により、85項目から、61項目に絞られた。次に、国内の家族看護を専門とする研究者とジェネラリスト看護師10名を対象としたインタビュー調査を実施し、項目の表面妥当性を検討し、表現を一部修正した。その後、61項目の家族看護実践能力尺度の信頼性、妥当性の検討を行った。698名（内，再テスト法76名）から回答を得た。統計解析を行った結果、尺度の構成概念妥当性，併存妥当性，安定性，信頼性が確保された。

研究３　家族看護力向上のための教育プログラム、ｅラーニングツールの作成

看護教育におけるｅラーニングについての国内文献検討を行った結果、多くの文献は学生向けの ｅ ラーニングについての研究であり、現任教育のものが少ないことが明らかとなった。ｅラーニングは、いつでもどこでも手軽にできるというメリットがある一方で、受講者のモチベーションを保つことの難しさなどが指摘されており、ｅ ラーニングを受講する際の学習サポートの重要性が明らかとなった。そこで、本教育プログラムでは、受講期間中の質問コーナーを設けることとした。次に、日本家族看護学会学術集会にて、家族看護の現任教育におけるｅラーニングについての交流集会を行い、参加者からの意見を集約した。その結果、家族支援介入の具体的な事例で演習できることが実践能力の育成につながるとの意見が多く、ｅ ラーニングに事例を入れることとした。

最終的に、本ｅラーニングは家族看護過程の基礎を学ぶことができるものと位置づけ、全6回の講義形式とし、各回の講義終了後にチェックテストを設けた。内容は下記のとおりである。

1. 家族看護とは？（10分のスライド講義）
2. 家族の情報収集（10分のスライド講義）
3. 家族のアセスメント（10分のスライド講義）
4. 家族看護計画の立案（10分のスライド講義）
5. 家族看護支援（10分のスライド講義）
6. 事例（20分のスライド講義）

研究４　家族看護力向上プログラムの妥当性の検討

A大学医学部附属病院、C市内の訪問看護ステーションに勤務するジェネラリスト看護師を対象とし、約1ヶ月間研究3で作成したeラーニングを用いた教育プログラムを実施した。教育プログラム実施前後で測定したジェネラリスト看護師の家族看護実践能力尺度の得点に改善が認められたが、対象者数が少ないため、今後も本調査を継続し、本教育プログラムの有効性を検討したい。また、本研究では家族看護過程の基礎を学ぶ教育プログラムを開発したが、今後は状況別や分野別など、様々なセッティングにおける教育プログラムを開発していきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

①福井美苗、本田順子、法橋尚宏、こどもの長期入院に伴う家族役割の変化によるストレスとコーピング、小児看護学会誌、査読有、25(1)、2016、pp.29-35

〔学会発表〕（計14件）

①本田順子、島田なつき、永冨宏明、法橋尚宏、家族看護過程における家族看護実践能力の構成要素に関する文献検討、第36回日本看護科学学会学術集会、2016年12月

②友滝愛、本田順子、大久保豪、看護分野におけるScoping Reviewの動向、第36回日本看護科学学会学術集会、2016年12月

③細田三奈、萩岡あかね、本田順子、こども虐待支援に対する医療機関の抱える困難に関する文献検討、日本小児看護学会第26回学術集会、2016年7月

④浅野みどり、荒木暁子、池田真理、本田順子、中村由美子、石垣和子、日本の家族看護における看護師に求められる能力―看護基礎教育における家族看護学教育の充実を視座に―、日本家族看護学会第23回学術集会、2016年9月

⑤Ai Tomotaki、Junko Honda、Methodology for interventional studies on family nursing: A systematic review、19th East Asian Forum of Nursing Scholars、2016年3月

⑥Lisa Whitehead、Kathryn Hoehn Anderson、Maria do Céu、Barbieri Figuieredo、Christina Nyirati、Norma Krumwiede、Janice Bell、Junko Honda、Cristina Garcia-Vivar、Francine de Montigny、Li-Chi Chiang、Barbara Voltenen、Romy Mahrer-Imhoff、France Dupuis、Family nursing competencies: From process top Product、13th International Family Nursing Conference、2017年6月

⑦Maria do Ceu Barbieri-Figueiredo、Kathryn Anderson、Frances Dupuis、Cristina Garcia-Vivar、Junko Honda, Norma Krumwiede、Christina Nyirati、Francine de Montigny、Li-Chi Chiang、Barbara Voltenen、Lisa Whitehead、Janice Bell、Dissemination of the IFNA position statement on generalist competencies for family nursing practice、13th International Family Nursing Conference、2017年6月

⑧Sonja Meiers、Lindsay Smith、Birte Østergaard、Anne, Brødsgaard、Cindy Danford、Kathryn Hoehn Anderson、Crystal Edds-McAfee、Helene Moriarty、Veronica Swallow、Junko Honda、Suzanne Feetham、Hanne Konradsen、Christine Feeley、Defining family nursing: An international perspective、13th International Family Nursing Conference、2017年6月

⑨小林京子、池田真理、本田順子、法橋尚宏、家族をユニットで理解するための研究とその成果の利用：家族看護学研究法リレーシンポジウム、日本家族看護学会第24回学術集会、2017年9月

⑪絹谷果歩、法橋尚宏、本田順子、長期入院をする高校生への教育支援の検討、第16回日本小児がん看護学会学術集会、2018年11月

⑫本田順子、高谷知史、飯島一誠、わが国における腎不全の子どもをもつ家族への支援：文献レビューによる先行研究結果の統合、第40回日本小児腎不全学会学術集会、2018年11月

⑬本田順子、永冨宏明、藤野崇、現場実践力を高めるeラーニングをつくるために：教える，学ぶ，学ぶ人を支える視点でのディスカッション、日本家族看護学会第25回学術集会、2018年9月

⑭Junko Honda、Hiroaki Nagatomi、Natsuki Shimada、Advantages and challenges of e-learning in nursing education in Japan、22nd East Asian Forum of Nursing Scholars、2019年1月

６．研究組織

(1)研究協力者

研究協力者氏名：永冨　宏明

ローマ字氏名：(NAGATIMI, Hiroaki)

研究協力者氏名：島田　なつき

ローマ字氏名：(SHIMADA, Natsuki)

研究協力者氏名：Kathryn Hoehn Anderson

ローマ字氏名：(Kathryn Hoehn Anderson)

研究協力者氏名：藤野崇

ローマ字氏名：(FUJINO, Takashi)
研究協力者氏名：友滝愛
ローマ字氏名：(TOMOTAKI, Ai)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。